

## (1) 開会挨拶

皆さん、おはようございます。

このたび、第五世代コンピュータ国際会議を開催いたしましたところ、世界各国及び国内各方面から多数の方々のご参加を賜り、まことにありがとうございます。また、通商産業省から渡部通産大臣、熊野機械情報産業局長をはじめ、各界から多数の来賓の方々のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

はじめに、この第五世代コンピュータの研究開発の過程を振り返りますと、3年間の準備、検討段階を経て、1981年10月に初めて日本の第五世代コンピュータの実現のための研究課題、及び計画が公表され、第五世代コンピュータ国際会議1981が開催されました。この国際会議を踏まえ、1982年4月に通商産業省は、官界、学会、産業界の幅広い関係方面の強力なご支援、ご協力をもとに、10年計画の第五世代コンピュータ・プロジェクトを開始し、当機構が推進の中核を担うことになりました。1982年から前期3年間で基本技術の開発を行い、FGCS'84国際会議で発表し、1985年からプロジェクト中期4年間のサブシステム開発を行い、その成果をFGCS'88国際会議で発表しました。今回の国際会議は第4回目の開催となりますが、このプロジェクトの最終年度であり、後期の成果としてのプロトタイプ・システムを発表いたします。

このプロジェクトは推論処理と並列処理を中核に据えた、新しいハードウェアとソフトウェアの技術の確立を行うことを目指したものです。現在、このプロジェクトではハードウ

財団法人 新世代コンピュータ技術開発機構  
理事長 関澤 義

エアとソフトウェアを開発し、第五世代コンピュータ技術として一貫性のある形に体系づけて、さらにこれらをプロトタイプ・システムとして、実際に稼働するものとして統合しております。

まず、ハードウェアとして、当初目標の1,000台規模の並列推論マシンが試作されています。並列推論マシン用の基本ソフトウェアとして、並列オペレーティング・システムや、知識ベース管理システムを開発しています。さらには、定理証明、制約処理、自然言語処理を行う知識プログラミング・ソフトウェア、及び実験的応用システムなど、多くのものが開発されています。これらのすべての成果をこの国際会議の全体会議や、ICOTセッションにより発表するとともに、20件のデモンストレーションを通して紹介することにしております。

さて、当機構の研究体制ですが、ICOTの研究機関は国の研究機関、及びコンピュータ・メーカー各社等から出向している約100名の研究員で構成されており、これまでに発足以来、約210名の若き研究員がこのプロジェクトに携わってきました。また、当プロジェクトの実施に際しては、関係業界、関係団体多数の研究者の協力も得て、研究開発を推進してまいりました。一方、研究開発の進め方については、アドバイザー・グループとして、官界、学会、産業界の各方面の専門家の方々にご参加をいただき、そのご指導を仰いでまいりました。

他方、開かれた研究所としての活動として、海外とは積極的に研究交流を行ってまいりまし

た。技術発表や海外研究者との研究討論の機会を数多く設けることをはじめとして、日米、日仏、日本・スウェーデン・イタリア、日英間の定期的ワークショップの開催や、欧米各国の5つの研究機関、大学との共同研究等を推進してまいりました。

予算面におきましては、通商産業省の委託を受けて、前期3年間では合計82億円、中期4年間では216億円、後期4年間では242億円、合計約540億円の予算で研究開発を実施してまいりました。

今回は最終の研究成果を報告するとともに、あわせて内外の関連研究者による研究発表と、相互の意見交換を行うことを目的として国際会議を開催することにいたしました。

開催に当たりましては、田中英彦実行委員長、田中穂積プログラム委員長をはじめ、推進会議、実行委員会及び各委員会委員各位の献身的なご尽力を賜り、ここに厚く御礼申し上げる次第であります。また、本会議の開催に対する関係の業界及び諸団体の方々のご支援にも、深く感謝したいと思います。

今回の国際会議には多数の方々のご参加をいただき、参加者の方々のご協力と活発な意見交換を通じて、実り豊かな国際会議となり、将来の新しいコンピュータの開発へ向けて確実に前進するとともに、世界各国における情報処理の技術の発展に大きく貢献することを念願致しまして、開会のあいさつといたします。

ご静聴、ありがとうございました。